

「のぎく」という童謡があります。3 番までありますが、その 2 番はこう唄っています。

秋の日ざしを あびてとぶ
とんぼをかるく 休ませて
しずかに咲いた 野辺の花
やさしいのぎく うすむらさきよ

誠に美しい歌詞だと思います。歌詞が美しいだけでなく、「旋律」と「日本語の抑揚」がよく合っていて、耳に心地よいのです。日本語の抑揚を完全に無視した旋律の近年の唄とは、格がちがうと思います。のぎく（野菊）とは、栽培された園芸品種ではなく、本来の野山に咲く「キク科の山野草」のことです。たくさんの種類がありますが、歌詞にある「うすむらさきよ」というのは、恐らく「ノコンギク」のことでしょう。

ノコンギク（野紺菊）*Aster microcephalus* var. *ovatus* は、キク科の多年草で、夏の終わりにから秋にかけて、日本各地の野山でごく普通に見られる山野草です。明るい草地を好み、花の少ない今の時期でもいろいろな昆虫が訪花します。この日も、ハナムグリが 1 匹、蜜を吸いに来ていました。

（2025 年 9 月下旬／北軽井沢）

